



事業趣旨

米国の金融危機に端を発した世界同時不況に加えて新型インフルエンザの流行といった厳しい経済状況の中で、我が国並びに世界の観光関連産業は大きな打撃を受けている。円高の煽りを大きく受けたインバウンド（訪日旅客）は昨年8月以降大きく前年を下回り、日本政府観光局（JNTO）の訪日外客数によると本年1月から5月の累計で2,670,600人と対前年マイナス26.9%の状況で推移している。一方、日本からの海外旅行アウトバウンドも円高の割には出国者数が伸びず本年1月から5月の累計で6,179,000人と対前年マイナス6.8%と落ち込んでいる。このような国際観光の閉塞的な状況にあって、

- 我が国の観光を活性化させるために観光関連産業、観光行政等関係者は何をすべきか？
- 不況をどのように乗り切っているのか、短期的な処方箋はあるのか？
- 景気回復後に国際観光において優位に立てるような準備をしているのか？中・長期を見据えた戦略をどう構築すべきか？

等について、国内外の講師による取組事例紹介等とともに、その後のディスカッションを通じて、世界の国際観光の現状と見通し、そして日本の国際観光を活性化するために取り組むべき施策や方向性を明らかにしてゆく。

現状と背景

金融危機による世界同時不況
新型インフルエンザの影響

円高など

日本経済の深刻化
インバウンドの減少
観光関連産業への打撃

わが国の観光を活性化・回復させるために 求められる対応策とその重要性

短期的な処方箋はあるか?

中・長期戦略を
観光行政・観光関連産業はどう構築すべきか?
今、何をすべきか?

国内外の講師による事例紹介と ディスカッションを通じて明らかにする

異業種企業
からの提言

国連世界観光機関(UNWTO)より
世界観光経済の予測

香港政府観光局より
国際観光促進策事例

国際観光振興
学識経験者より
国際観光振興の具体策

旅行情報メディアより
国内観光促進策事例

国際観光活性化に向けた方策の提案



シンポジウム構成

世界同時不況という逆境に照準を合わせて、今、世界の観光経済はどのような状態であるのか、各国の行った観光促進回復の施策について、また、その後の回復状況について現状把握とその検証を行い今後の有効な対応策を論じる。

○ 不況に立ち向かう異業種企業の事例より

若い人にモノづくりに復帰してもらおうとした「人工衛星打ち上げ」が、「人づくり」や、「中小企業の横の連携」へと繋がり、「大きな力」となった。さらに新たな連携、地元企業発の「産業観光事業」へと広がりも見せている。ネットワークの重要性や、異業種連携による新しい事業展開の今後の展望について特別講演をいただき、異業種からのヒントを得る。

○ 国連世界観光機関(UNWTO)より

UNWTO世界観光機関は、世界同時不況が叫ばれる中、いち早く、ツーリズム再生委員会(TRC Tourism Resilience Committee)を立ち上げ、最新の世界の観光経済状況の把握に乗り出した。各国政府が打ち出した観光経済再生策や取り組み事例紹介、今後の世界観光経済の見通しなどについて、基調講演をいただく。

○ 海外での国際観光促進策事例より

中国・香港は、1997年に英国より中国への領土返還を受けて返還前のバブル観光景気と返還後の大不況を経験。2003年に新型肺炎SARSの大流行により、事実上の渡航禁止の危機的状況を見事に克服して、世界から入国者数を伸ばしている。その観光政策の基本と具体的なアクションプランを講演していただく。

○ 日本国内事例より

旅行情報メディア「じゃらん」は国内最大級の宿・ホテル予約のネットサイトを持ち、個人の旅客動向をタイムリーに把握できる立場にある。従来の旅行業や観光産業とは異なる立場から、日本の観光地で元気なところ、また、そこに共通するキーワードから、元気な観光業へのヒントを講演いただく。

○ 学識経験者より「Two Way Tourism」としての国際観光促進策

海外での国際観光振興に造詣の深い学識経験者より、この経済不況に焦点を当て、海外で実施された施策に学び、日本が行うべき国際ツーリズムの振興策の短期・長期の戦略について、具体的なリピーター対策や、為替施策などに踏み込んで講演をいただく。

パネルディスカッション構成

過去の事例、現在の元気の出ている企業、組織、地域からの事例により、日本のインバウンド促進に繋がる提案や、持続可能な観光への提言をまとめる。

I.世界・日本の観光は、回復するのだろうか？それは、どのようなとき(いつ頃)？

II.国際観光の回復に向けて、今、公的セクター、民間セクターができるることは何か？

III.中長期的な観光の持続的発展に向けて、この不況期だからこそできること、やるべきことは何か？

IV.まとめと国際観光活性化への提言





世界同時経済不況下における国際観光促進に関する国際シンポジウム実施事業 「国際観光活性化シンポジウム(仮称)」

日 時:	平成21年9月11日(金) 10:30~17:30
場 所:	大阪国際会議場(グランキューブ) 〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-51
主 催:	国土交通省観光庁、世界観光機関(UNWTO)
後援(予定):	大阪府、大阪商工会議所、日本政府観光局(JNTO)
参加者:	200名(参加無料) 観光関連産業関係者・団体、地方公共団体関係者、マスコミ 等
使用言語:	日本語、英語(同時通訳)

内 容:

I.特別講演(60分)

テーマ:「夢はでっかく 目指せオンライン！」
講師:株式会社アオキ 代表取締役
東大阪市モノづくり親善大使 青木 豊彦氏

II.問題提起(20分)

テーマ:「世界同時不況下における国際観光促進について」
モデレーター:株式会社ツーリズム・マーケティング研究所 代表取締役 高松 正人氏

III.基調講演(40分)

テーマ:「今、世界の観光は、そしてこれから」
講 師:世界観光機関(UNWTO)ツーリズム市場調査部 副部長 サンドラ カルボン女史
Deputy Chief of Market Trends, Competitiveness and Trade in Tourism Services,
World Tourism Organization (UNWTO)

IV.講演(各30分)

①テーマ:「不況の中でも元気な観光地---香港」(30分)
講 師:香港政府観光局 Hong Kong Tourism Board (HKTB)
日本・韓国地区局長(Director North Asia) 加納 國雄 氏

②テーマ:「今、元気な日本の観光地」(30分)
講 師:(株)リクルート旅行カンパニー
じゅらん リサーチセンター センター長 沢登 次彦 氏

③テーマ:「海外に学べ！日本のインバウンド」(30分)
講 師:桜美林大学ビジネスマネジメント学群 教授(ツーリズム・ホテル・エンターテイメントコース)
大阪観光大学・名誉教授 鈴木 勝氏

V.パネルディスカッション &まとめ(95分)

テーマ:「今、日本のツーリズムがなすべきことは何か？」
モデレーター:高松 正人氏
パネリスト4名:サンドラ カルボン女史、加納 國雄氏、沢登 次彦氏、鈴木 勝氏

時間	プログラム	内容
10:00	受付・開場	セミナー受付開始
10:30(15)	開会挨拶	観光庁、世界観光機関(UNWTO)アジア太平洋センター
10:45(60)	特別講演	・「夢はでっかく 目指せオンリーワン！」 株式会社アオキ 代表取締役 東大阪市モノづくり親善大使 青木 豊彦氏
11:45(75)	昼食休憩	
13:00(20)	問題提起	・「世界同時不況における国際観光促進」 株式会社ツーリズム・マーケティング研究所 代表取締役 高松 正人氏
13:20(40)	基調講演	・「今、世界の観光は、そしてこれから」 世界観光機関(UNWTO)ツーリズム市場調査部 副部長 Deputy Chief of Market Trends, Competitiveness and Trade in Tourism Services, World Tourism Organization (UNWTO) サンドラ カルボン女史
14:00(30)	講演①	・「不況の中でも元気な観光地---香港」 香港政府観光局 Hong Kong Tourism Board (HKTB) 日本・韓国地区局長(Director North Asia) 加納 國雄氏
14:30(30)	講演②	・「今、元気な日本の観光地」 株式会社リクルート旅行カンパニー じやらん リサーチセンター センター長 沢登 次彦氏
15:00(30)	講演③	・「海外に学べ！日本のインバウンド」 桜美林大学ビジネスマネジメント学群 教授 (ツーリズム・ホテル・エンターテイメントコース) 大阪観光大学・名誉教授 鈴木 勝氏
15:30(20)	休憩	
15:50(80)	パネル ディスカッション	・「今、日本のツーリズムがなすべきことは何か？」 モデレーター 高松正人氏 パネリスト4名 サンドラ カルボン女史、加納 國雄氏、 沢登 次彦氏、鈴木 勝氏
17:10(15)	まとめ	・モデレーターによるまとめ(国際観光活性化への提言)
17:25(5)	閉会挨拶	
17:30	閉会	



問題提起（モデレーター）



高松 正人（たかまつ まさと）氏
株式会社ツーリズム・マーケティング研究所
代表取締役

1958年9月23日生まれ。
東京大学教育学部学校教育学科卒業後、株式会社日本交通公社入社。
団体旅行営業、販売促進、インセンティブラベル企画、人事企画、ITなどの業務を担当。2000年に当社の設立準備に従事し、
2001年 株式会社ツーリズム・マーケティング研究所マーケティング事業
部長経て、2009年より現職。
観光専門家として国内外からの調査・講演を受け幅広く活躍。
主な著作（著書・論文）に、「旅行会社の情報戦略」、「The Asia & Pacific
Intra-Regional Outbound Series -Japan」など。

テーマ「世界同時不況下における国際観光活性化」

日本の観光関連業界に国際観光をいかに活性化させるか問題提起

世界不況、インフルエンザ等のために、日本の国際観光は元気がなくなっている。
そのような逆風のときだからこそ観光業界としてなすべきことは何か？
国内外の観光デスティネーションや企業が、不況をどのように乗り切り、さらに景気
回復後に優位に立てるような準備をしているのか？
逆境に立ち向かう日本の観光関連業界に問題提起する。



特別講演



青木 豊彦（あおき とよひこ）氏
株式会社アオキ 代表取締役
東大阪市モノづくり親善大使

1995年に父が経営する青木鉄工所を株式会社アオキと社名変更し、
二代目社長に就任。中小企業が集まるモノづくりの町、東大阪で「メイド・
イン・東大阪」の人工衛星を打ち上げようと計画をスタートさせた中心者。
2002年7月に「東大阪宇宙開発協同組合」を設立、理事長に就任。2009
年1月23日には小型人工衛星“まいど1号”的打ち上げを成功させた。も
ともとチャレンジ精神旺盛で、自社の新分野開拓に努め、ロボット部品や
航空機部品への進出を果たした。「モノづくりにはプライドを持たなければ
ならない」との思いは、1997年同社を世界的航空機メーカーであるボーイ
ング社の認定工場に押し上げた。航空宇宙産業を東大阪の地場産業に
したいというのが夢。「若者がモノづくりに魅力を感じて集まってくれる大阪
を世界の楽市・楽座にしたい」と期待している。

テーマ 「夢はでっかく 目指せオンリーワン！」

中小企業の下町で、ものづくり大使を務める異業種からの不況脱
出への提言

「人工衛星を打ち上げよう」という大きな夢に向かい、優れた最先端技術を持つ、
東大阪の中小企業が如何に連携し、不況の中に活路を見出してきたか。
夢がつなぐ東大阪の地場産業の未来と、その波及効果による地元活性化につい
て語っていただく。



国際観光活性化シンポジウム(仮称)企画ご提案書

国際観光活性化シンポジウム(仮称)企画ご提案書

を発した世界同時不況に加えて新型インフルエンザ
経済状況の中で、我が国並びに世界の観光関連産業
いる。円高の煽りを大きく受けたインバウンド(訪日旅
(前年を下回り、日本政府観光局(JNTO)の訪日外
ら5月の累計で2,670,600人と対前年マイナス26.9%の
一方、日本からの海外旅行アウトバウンドも円高の
本年1月から5月の累計で6,179,000人と対前年マ
いる。このような国際観光の閉塞的な状況にあって、
化するために観光関連産業、観光行政等

切っているのか、短期的な処方箋はあるのか?

光において優位に立てるような準備をしているの
た戦略をどう構築すべきか?

基調講演



サン德拉 カルボン女史

世界観光機関(UNWTO)ツーリズム市場調査部 副部長
Deputy Chief of Market Trends, Competitiveness and Trade in Tourism Services, World Tourism Organization (UNWTO)

1995年ポルトガル リスボン理工科大学卒業後2006年にスペイン マドリード大学修士課程でマーケティング専攻し卒業。1997年11月よりポルトガル政府機関である Icep Portugal の観光促進部・マーケティング部長として各国への観光プロモーション活動に従事した。

2003年4月にUNWTOに入り、現在はツーリズム市場調査部の副部長として全世界、地域のマーケットリサーチや教育訓練プログラムなどに携わっている。UNWTOや他の機関でのセミナー、会議で観光トピックスをメインに多数講演。2009年よりTRC委員会 (Tourism Resilience Committee: ツーリズム再生委員会)を主宰して各国のツーリズム再生状況を調査分析している。

テーマ 「今、世界の観光は、そしてこれから」

国連の観光機関より最新の世界経済状況と各国の観光活性化への取組

昨年、世界金融危機が発生した後UNWTOがいち早く立ち上げたTRC委員会(ツーリズム再生委員会)は世界の経済動向と旅行業界の動きを追ってきた。最新のデーターを基に、各国が行ったツーリズム復興への対策と将来へ向けた提言を行う。

講演①



加納 國雄(かのう くにお)氏

香港政府観光局 Hong Kong Tourism Board (HKTB)
日本・韓国地区局長 (Director North Asia)

群馬県出身。県立高崎高等学校卒業後、米ブリガムヤング大学、次いでサンフランシスコ州立大学に進学し、国際経営学修士号(MBA)を取得した。1972年、米投資銀行であるマニファクチャラーズ・ハノーバー銀行(現・J.P.モルガン・チェース銀行グループ)に入行。その後、様々な要職を歴任した。1991年に高級テーブルウェアで有名なロイヤル・ドルトン・ドッズウェル 代表取締役社長に就任。そして95年に香港政府観光局の北アジア局長(Director North Asia、実質日本と韓国地区をまとめる日本・韓国地区局長)に就任した。

テーマ 「不況の中でも元気な観光地——香港」

不況を克服して元気な香港 過去の取組事例

1997年に英國は中国に香港島を返還した。返還前の大好況とその後の大不況、そして2003年新型肺炎SARSの大流行により事実上の渡航禁止の危機的状況を跳ね返して、世界同時不況下の中でも入国者数を伸ばしてきた香港。その観光政策の基本的な考え方と具体的なアクションについて紹介する。

プログラム内容①(案)

達成度

国際観光活性化シンポジウム(仮称)企画ご提案書

を発した世界同時不況に加えて新型インフルエンザ
経済状況の中で、我が国並びに世界の観光関連産業

いる。円高の煽りを大きく受けたインバウンド(訪日旅
く前年を下回り、日本政府観光局(JNTO)の訪日外
ら5月の累計で2,670,600人と対前年マイナス26.9%の
一方、日本からの海外旅行アウトバウンドも円高の
ず本年1月から5月の累計で6,179,000人と対前年マ
いる。このような国際観光の閉塞的な状況にあって、

化させるために観光関連産業、観光行政等
か?

切っているのか、短期的な処方箋はあるのか?

光において優位に立てるような準備をしているの
た戦略をどう構築すべきか?

講演②



沢登 次彦(さわのぼり つぐひこ)氏
株式会社リクルート 旅行カンパニー
じゃらんリサーチセンター センター長

1993年株式会社リクルート入社。教育機関広報事業部に配属。
18歳の進学マーケットに関する商品企画を担当。2002年10月に国内
旅行ディビジョンへ異動。山梨県、静岡県、神奈川県、熱海、湯河原、
箱根、三浦湘南鎌倉のエリアプロデューサーとして地域活性に携わる。
2007年4月よりじゃらんリサーチセンターのセンター長となる。

テーマ 「今、元気な日本の観光地」

元気な日本国内の観光地を従来の旅行業の立場から離れた視点で分析

国内の元気な観光地と、そこで観光振興・地域活性化の取り組み事例を紹介し
不況下で活力のある観光地の共通点などを分析する。

講演③



鈴木 勝(すずき まさる)氏
桜美林大学ビジネスマネジメント学群 教授
(ツーリズム・ホテル・エンターテイメントコース)
大阪観光大学・名誉教授

1945年千葉県生まれ。早稲田大学商学部卒業後、(株)日本交通公社
(現JTB)入社。(株)JTBアジア・取締役日本支社長を経験し退社、大阪
観光大学観光学部助教授そして教授を経て2008年4月より現職。
教鞭を取る傍ら、東アジア地域を中心として各国の国際観光促進委員を
務めるなど国際観光分野で幅広く活躍している。
「観光後進国ニッポン、海外に学べ」「観光立国ニッポン事始め」や「国際
ツーリズム振興論—アジア・太平洋の未来—」など執筆著書多数あり。

テーマ 「海外に学べ！日本のインバウンド」

日本の旅行業が目指すべき国際ツーリズムは何か

アジア・太平洋地域で、現地でのツアーを含むインバウンド受け入れ態勢を構築、
また、日本からのアウトバウンドツアー業務に携わった。
現在、東アジア地域を中心に、海外諸国政府の国際観光振興プロジェクトに携わって
いる。その経験を基に日本のインバウンド業界への提言を行う。